

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予報第3号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

### ヒメトビウンカの防除対策を徹底しましょう!

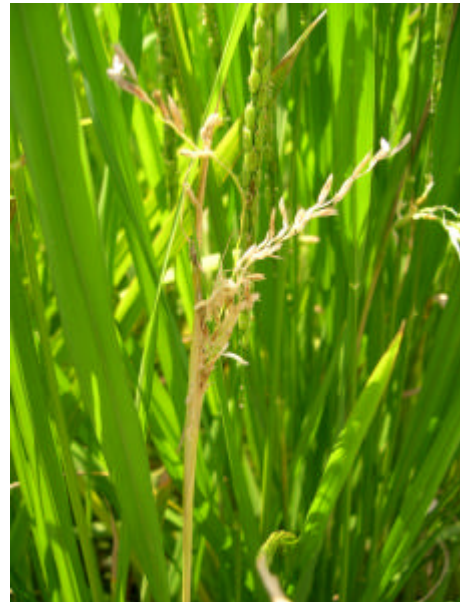
イネ縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカの保毒虫率は、県下平均8.4%(予報第2号参照)と高く、小麦での発生量も平年より多くなっています。前年、多発した地域では、防除の徹底を指導願います。



ヒメトビウンカ雌成虫



ヒメトビウンカ雄成虫



イネ縞葉枯病の症状

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は低く、3~4週目は平年並でしょう。

#### 要素別確率

要素	(低い) (少ない)	平年並	(高い) (多い)
気温	40	40	20
降水量	40	40	20
日照時間	30	30	40

(福岡管区气象台 21年5月22日発表抜粋)

予報第3号

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
水稲	縞葉枯病・ヒメトビウンカ (ヒメトビウンカの保毒虫率と発生量)	-	やや多	やや多
かんきつ	黒点病 そうか病 ミカンハダニ	- 並 やや多	やや少 並 やや多	並 並 やや多
なし	黒星病	並	並	並
ぶどう	べと病 黒とう病	並 やや少	並 やや少	並 やや少
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	少 並	やや少 並	やや少 並
いちじく	アザミウマ類	やや多	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類	やや多	-	やや多
茶	炭そ病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノドクサコバエ チャノキイロアザミウマ	並 少 並 少 並 並	並 少 やや多 少 並 並	並 並 多 少 やや少 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多	やや多

注：果樹共通 カメムシ類の発生量（現況）は前年比

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生を助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

## 【普通作物 - 水稲】

### 普通期水稲

#### 1 縞葉枯病・ヒメトビウンカ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多

##### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査（小麦での片振り20回すくい取り）の結果、発生量は平年より多（+）。

第一世代成幼虫 46.3頭（平年 17.9頭、前年 8.8頭）

イ ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、8.4%（過去6カ年平均5.1%、前年6.4%）であった（平成21年度病害虫発生予報第2号参照）（+）。

##### (3) 防除上の注意

ア 水稲育苗ほ場へのヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、小麦ほ場の近くやエノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物が繁茂した場所での育苗を避ける。

イ 縞葉枯病の発病株を認めたら直ちに除去する。

ウ 箱施薬剤の処理時には、農薬使用基準（投下薬量）を厳守し、育苗箱全面にむらがないように散布する。散布後は水稲への速やかな吸収を促すため、かん水を行う。

なお、育苗箱に農薬を散布する場合は、育苗箱の下にビニールシート等を敷き、地面への薬剤の浸透防止に努める。

## 【果樹】

#### 1 かんきつ黒点病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 昨年の10月2半旬の発生量は平年より少なかった(-)。

発病果率（平年 9.7%、前年 4.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

##### (3) 防除上の注意

ア 伝染源となる枯れ枝や剪定枝は除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤防除は、前回の散布から積算降水量250mmまたは1か月を散布間隔の目安に防除を実施する。

#### 2 かんきつそうか病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

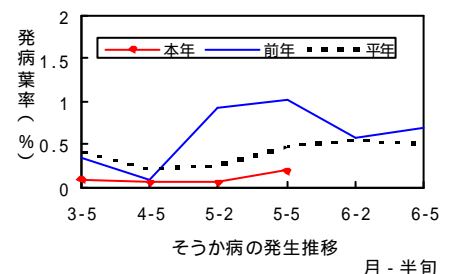
発病葉率 0.2%（平年 0.5%、前年 1.0%）

発生ほ場率 33.3%（平年 31.3%、前年 37.5%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

##### (3) 防除上の注意

伝染源となる罹病葉を除去し、幼果期の防除を徹底する。



### 3 かんきつのミカンハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+).

寄生葉率 26.4%(平年 11.6%、前年 5.0%)

発生ほ場率 58.3%(平年 58.3%、前年 50.0%)

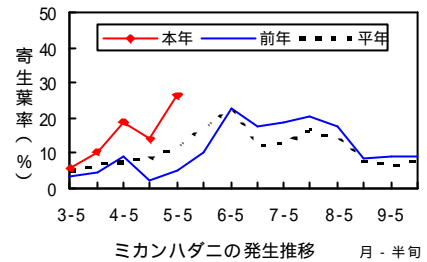
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 高度精製マシン油乳剤は、高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。なお、落花期以降にデラン剤を散布した園地は薬害が生じるので使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連用は、薬剤感受性の低下を来す可能性があるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 4 なし黒星病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

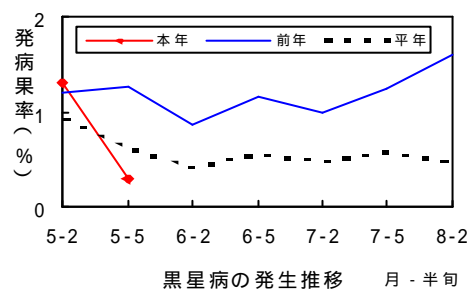
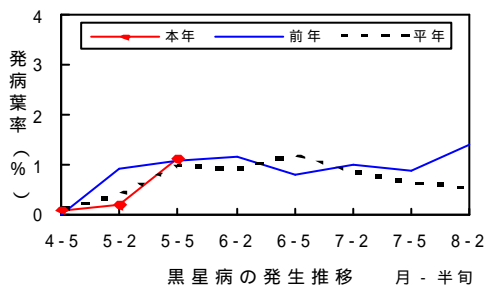
ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 1.1%(平年 1.0%、前年 1.0%)

発生ほ場率(発病葉) 45.5%(平年 39.0%、前年 66.7%)

発病果率 0.3%(平年 0.6%、前年 1.3%)

発生ほ場率(発病果) 10.0%(平年 23.3%、前年 46.7%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 5 ぶどうべと病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生は認められなかった(-)。

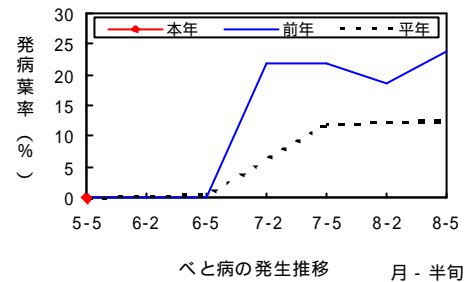
発病葉率 0%(平年 0.0%、前年 0%)

発生ほ場率 0%(平年 8.9%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

伝染源となる罹病葉は除去し、園外に持ち出し処分する。



## 6 ぶどう黒とう病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

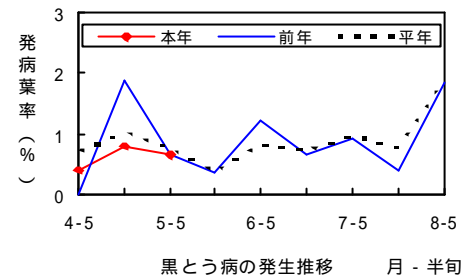
発病葉率 0.7%(平年 0.8%、前年 0.7%)

発生ほ場率 8.3%(平年 21.7%、前年 46.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

伝染源となる罹病葉及び罹病新梢は除去し、園外に持ち出し処分する。



## 7 かき炭そ病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生は認められなかった(-)。

発病枝率 0%(平年 0.3%、前年 0.1%)

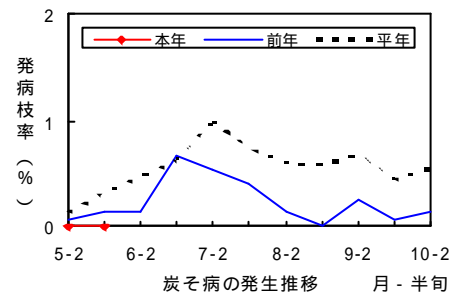
発生ほ場率 0%(平年 18.4%、前年 13.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

ア 伝染源となる罹病枝及び罹病果は除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 罹病枝の多い園では、降雨前の薬剤防除を徹底する。



## 8 かきのフジコナカイガラムシ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

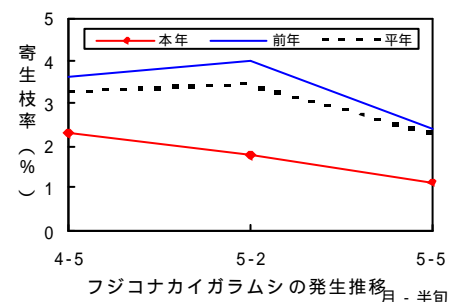
### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生枝率 1.1%(平年 2.3%、前年 2.4%)

発生ほ場率 35.7%(平年 53.4%、前年 80.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。



(3) 防除上の注意

ア 第1世代幼虫の孵化時期の防除効果が高いことから、6月1日頃とその約10日後の2回の防除を徹底する。なお、孵化時期はほ場によって差があるので、防除前に孵化幼虫の有無の確認をする。

イ 薬剤がかかりにくい場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。

ウ 薬剤散布にあたっては、なるべく天敵類に影響の少ない薬剤を選択する。

9 いちじくのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

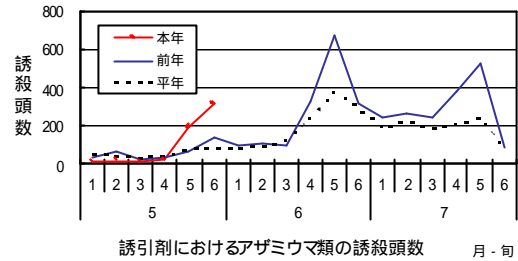
ア 5月1～26日までの誘引剤における誘殺虫数は、平年よりやや多であった(+)

550頭(平年 232.5頭、前年 205.9頭)

(調査地点：行橋市西泉)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並

か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。注) グラフの5月6半旬は26日までの誘殺頭数



(3) 防除上の注意

ア 園地周辺の6～8月に開花する植物でも増殖するので、畦畔等の除草に努める。

イ 誘引剤による調査では5月22日から誘殺量が増加している。ほ場で発生が認められたら定期的に薬剤防除を行う。

10 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多、前々年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬量は、県平均で1.3頭(前年 0.5頭、前々年 1.1頭)と前々年並である。(詳細は平成21年2月24日付「速報第3号」参照)

イ 5月5半旬までの予察灯への誘殺虫数は前年並であった(±)。

(調査地点：本所管内筑紫野市)

チャバネアオカメムシ 154頭(前年 344頭、前々年 268頭)

ツヤアオカメムシ 233頭(前年 399頭、前々年 58頭)

(調査地点：筑後支所管内八女郡黒木町)

チャバネアオカメムシ 192頭(前年 74頭、前々年 118頭)

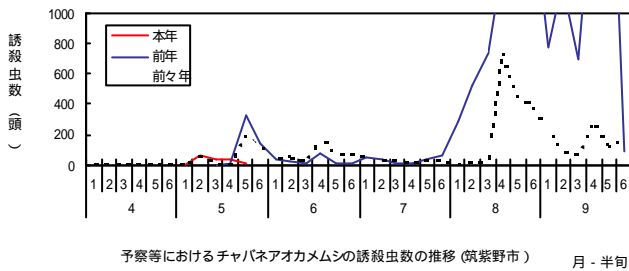
ツヤアオカメムシ 66頭(前年 14頭、前々年 4頭)

ウ 5月5半旬までのフェロモントラップへの誘殺虫数は前年よりやや多である(+)

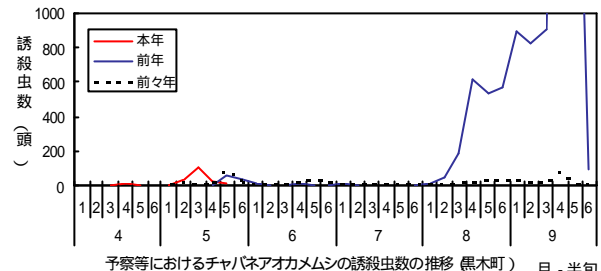
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 1346頭(前年 837頭、前々年 4,116頭)

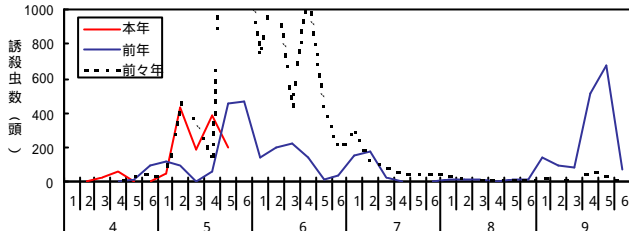
ツヤアオカメムシ 439頭(前年 211頭、前々年 191頭)



予察等におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (筑紫野市) 月 - 半月



予察等におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (黒木町) 月 - 半月



集合フェロモンにおけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (筑紫野市) 月 - 半月

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

気温が高い日が続き活動が活発になっている。常発地では、園内における本虫の発生状況の把握に努め、飛来を多く認めたら直ちに防除を行う。

### 【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況) 平年比	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
		平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや少	やや少	やや少	合成ピレスロイド系薬剤の効かないワタアブラムシの発生園では、クロロニコチニル系薬剤等の他系統の薬剤に切り替える。
なし アブラムシ類	やや少	並	並	合成ピレスロイド系薬剤の効かないワタアブラムシの発生園では、クロロニコチニル系薬剤等の他系統の薬剤に切り替える。
なし ハダニ類	並	並	並	薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
かき うどんこ病	並	並	並	多発園では、8月下旬に炭そ病との同時防除を行う。
かき ハマキムシ類		少	少	幼虫は葉と葉が重なった部分やヘタと果実の間に多く潜んでいるため、薬剤散布に際しては高圧で十分量散布する。

## 【茶】

### 1 炭そ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉数 0葉(平年 0.1葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

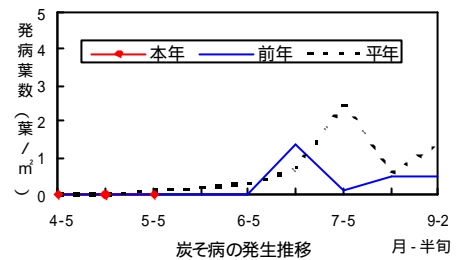
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、薬剤防除は降雨前が効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 2 もち病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

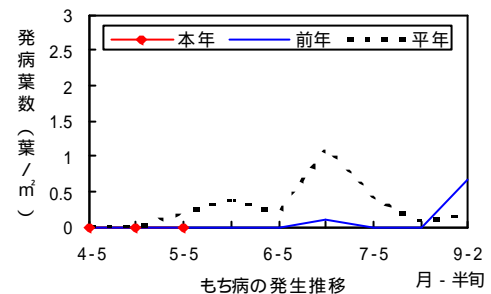
発病葉数 0葉(平年 0.2葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。



### 3 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 4.9%(平年 5.8%、前年 1.1%)

50葉当たり虫数8.1頭(平年 18.5頭、前年 2.4頭)

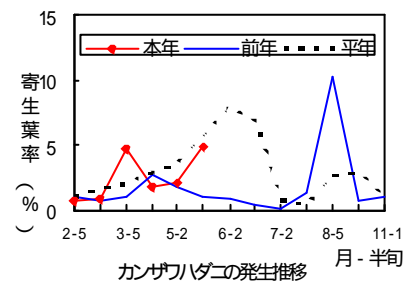
発生ほ場率 60.0%(前年 28.6%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(+)

#### (3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。





#### 4 チャノコカクモンハマキ

##### (1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より少

##### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は平年より少なかった( - )。

調査地点: 筑後市 78頭(平年 350頭、前年 171頭)

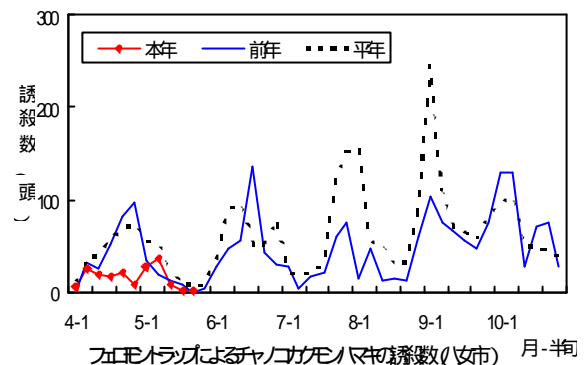
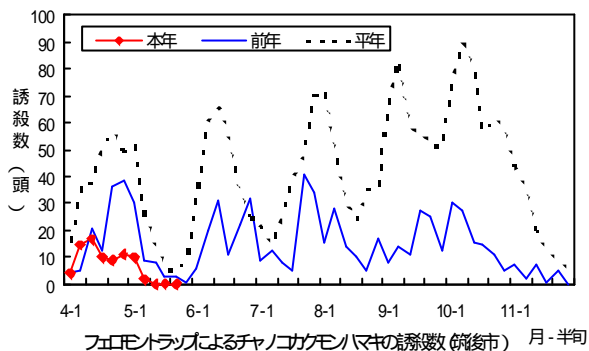
八女市173頭(平年 438頭、前年 360頭)

イ 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった( ± )。

被害葉数 0葉(平年 0.07葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている( ± )。



##### (3) 防除上の注意

ア ほ場で成虫の発生に注意し、第1世代成虫の発蛾最盛期から7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

#### 5 チャノミドリヒメヨコバイ

##### (1) 予報の内容

発生量: 平年並、前年よりやや少

##### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった( ± )。

たたき落とし虫数0.1頭(平年 0.2頭、前年 0.6頭)

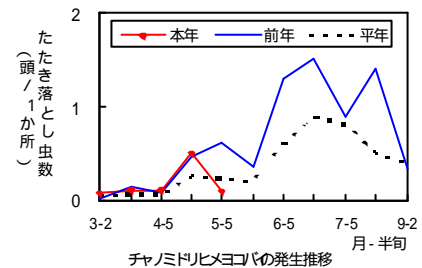
発生ほ場率 20.0%(前年 57.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている( ± )。

##### (3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

たたき落とし虫数 4.0頭(平年 6.9頭、前年 10.9頭)

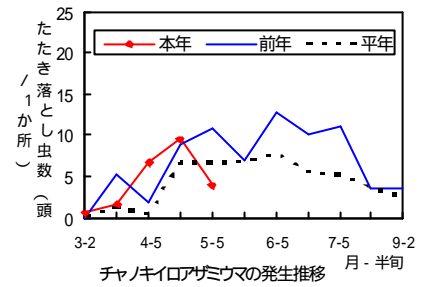
発生ほ場率 86.7%(前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

寄生株率 76.1%(平年 58.7%、前年 58.1%)

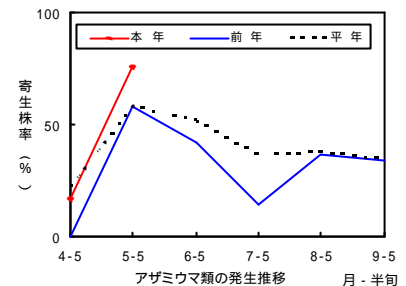
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア ほ場内やほ場周辺の除草を徹底する。

イ 本虫は、最初擬葉に発生するが微小昆虫であるため見つけにくい。このことから、白い紙等の上に払い落とし、発生量を推定する。

ウ 多発してからでは防除が困難になるので、初期防除を徹底する。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>本病は、ハウス内を蒸し込んだ後に発生しやすいので、換気を十分に行う。</li> <li>過繁茂にならないように整枝を行い、ほ場内の通風をよくする。</li> <li>薬剤散布は日中を避け、夜間、葉に水滴が残らないよう早朝に行う。</li> </ul>
鱗翅目害虫	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄色蛍光灯を設置しているほ場では、点灯を開始する(6月~10月)</li> <li>4mm目合いの防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。</li> </ul>

## 農薬の危害防止に努めましょう ～6月から8月は「農薬安全使用運動」期間です～

福岡県では農薬の使用機会が多い6月から8月を「農薬安全使用運動」の実施期間として定め、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮等について周知徹底するとともに、農薬による事故などを防止することを目的として安全使用講習会の開催、啓発チラシの配布等関係機関、団体が一体となって取り組みます。

散布者の安全はもちろん、人畜、隣接作物、河川等への配慮についてご指導よろしくをお願いします。

### 農薬安全使用運動重点啓発事項

散布前に必ず農薬ラベルを確認

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数)

散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底

- ・ 風、散布方向、散布時間、散布圧に留意
- ・ 飛散しにくい農薬(剤型)や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用
- ・ 散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

水田除草剤では止水期間(1週間程度)を遵守

- ・ 水田において農薬を使用するときは、止水期間を1週間程度とし、落水・かけ流しをしない。

散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄

防除履歴の正確な記帳

- ・ 薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704204.html>  
電子メール [kfok0301@sp.jpfn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpfn.ne.jp)